

# 平安京右京三条三坊十四町跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告  
二〇一九―六

平安京右京三条三坊十四町跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人  
京都市埋蔵文化財研究所



# 平安京右京三条三坊十四町跡

2019年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



# 序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、工場増築計画に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

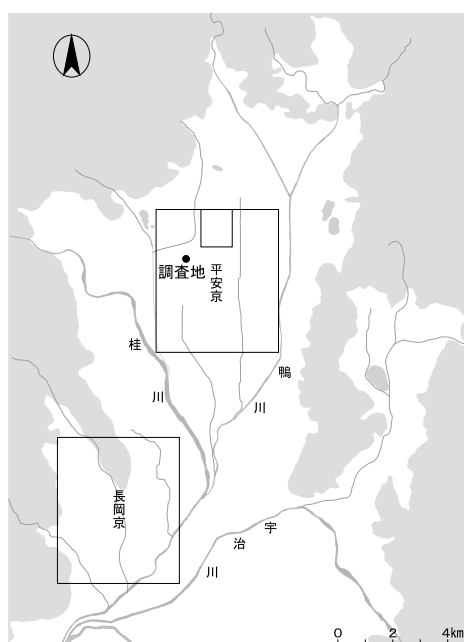
令和元年12月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所  
所 長 井 上 満 郎

# 例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡（京都市番号 19H039）
- 2 調査所在地 京都市中京区西ノ京月輪町33番地の1
- 3 委 託 者 京都薬品工業株式会社 代表取締役社長 北尾和彦
- 4 調査期間 2019年7月10日～2019年8月13日
- 5 調査面積 286㎡
- 6 調査担当者 岡田麻衣子
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「山ノ内」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 岡田麻衣子
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。
- 15 協力者 網伸也氏、木立雅朗氏

（調査地点図）



# 目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 調査地と環境	3
(2) 既往の調査	3
3. 遺 構	6
(1) 基本層序	6
(2) 遺構の概要	6
(3) 遺 構	8
4. 遺 物	10
(1) 遺物の概要	10
(2) 出土遺物	10
5. ま と め	12

# 図 版 目 次

図版1	遺構	調査区平面図 (1 : 300)
図版2	遺構	調査区断面図 (1 : 50)
図版3	遺構	1 1区全景 (北から)
		2 2区全景 (北から)
図版4	遺構	1 3区全景 (南から)
		2 2区井戸3半裁状況 (東から)
		3 3区溝18・31 (西から)

## 挿 図 目 次

図1	調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：1,000）	2
図3	調査前全景（北から）	2
図4	重機掘削（北西から）	2
図5	作業状況（北から）	2
図6	社員説明会（南西から）	2
図7	周辺調査位置図（1：4,000）	3
図8	基本層序図（1：40）	6
図9	2区・3区平面図（1：150）	7
図10	溝18・31断面図（1：50）	8
図11	井戸3実測図（1：50）	8
図12	柱穴列1・2実測図（1：40）	9
図13	出土土器実測図（1：4）	10
図14	井戸3出土土器	11
図15	3区拡張後 溝18・31（南西から）	12

## 表 目 次

表1	周辺調査一覧表	4
表2	遺構概要表	6
表3	遺物概要表	10



# 平安京右京三条三坊十四町跡

## 1. 調査経過

今回の調査は、工場増築計画に伴う発掘調査である。調査地は、平安京右京三条三坊十四町の北部にあたる（図1）。調査に先立ち京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」とする）によって試掘調査が実施され、平安時代から鎌倉時代の遺構・遺物が確認された。そのため、原因者に対して発掘調査の指導がなされた。発掘調査は、原因者から委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が行った。

周辺の調査では、平安時代前期から中期の掘立柱建物、井戸、溝、条坊側溝、柵、湿地などの遺構や遺物などが検出されていることから、同時期の遺構・遺物の検出が推測された。

調査は、残土置き場の関係から南半部を1区、北半部を2区として設け、反転して行った。調査対象面積は270㎡である。また、2区北側で三条坊門小路の南側溝を確認するため、当初予定になかった3区（2m×8m）を新たに設け、合計286㎡の調査を行った（図2）。

調査は2019年7月10日に開始した。調査の結果、平安時代の三条坊門小路南側溝、井戸、柱穴列や平安時代以降と考えられる耕作に伴う水田整備時の造成による段差、江戸時代の溝などを検出した。調査中は適宜、文化財保護課や検証委員による臨検を受け、図面作成・写真撮影などの記録作業を行い、8月13日に全ての現地作業を終了した。また、調査期間中の8月5日に社員説明会を行い、約20名の参加を得た（図6）。

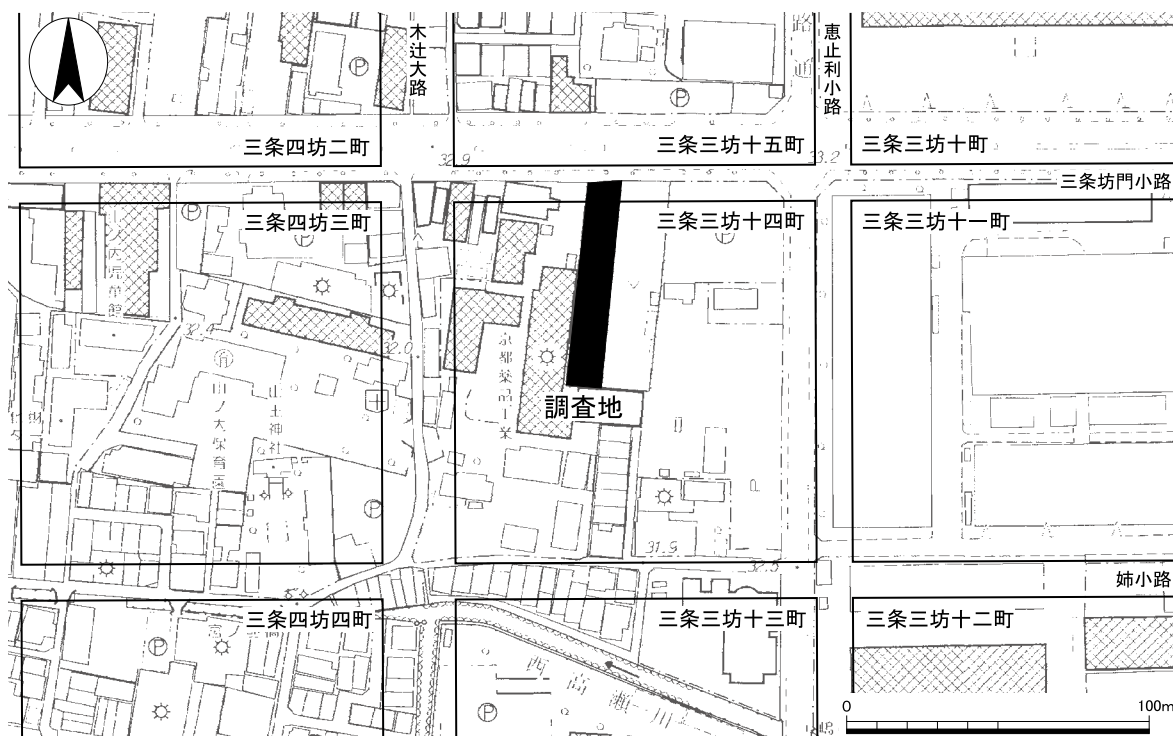


図1 調査位置図（1：2,500）

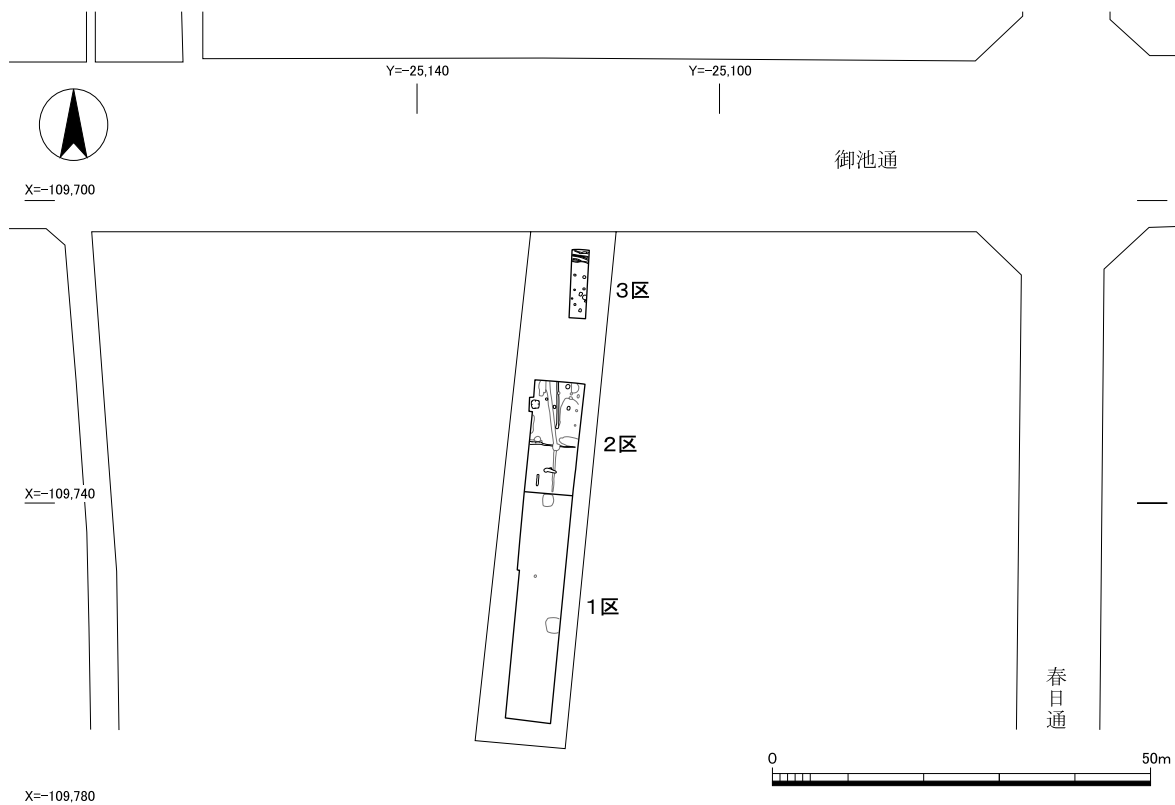


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)



図3 調査前全景 (北から)



図4 重機掘削 (北西から)



図5 作業状況 (北から)



図6 社員説明会 (南西から)

## 2. 位置と環境

### (1) 調査地と環境

調査地は、京都盆地の北西部に位置しており、紙屋川扇状地の南部に立地している。平安京右京三条三坊十四町の北西部にあたり、弥生時代から古墳時代の遺構・遺物の散布地である西ノ京遺跡の範囲から約50m程西側にある。また、調査地北側に位置する平安京右京三条三坊十五町は、十六町と併せて平安時代末期に六条修理大夫藤原顕季の所領であったことが『拾芥抄』「西京圖」に記載されている<sup>2)</sup>。

### (2) 既往の調査（図7）

調査地周辺では、これまでに多数の試掘・立会・発掘調査が行われており、特に平安京右京三条三坊は平安京内でも高い密度で発掘調査を実施している。

三条三坊九町の調査1では、古墳時代の竪穴建物・河川・土坑、平安時代前期の掘立柱建物・溝・土坑などが検出されている。

三条三坊十町の調査2では、古墳時代の溝・流路、平安時代前期の掘立柱建物・溝・柵・土坑、平安時代中期の墓などが検出されている。

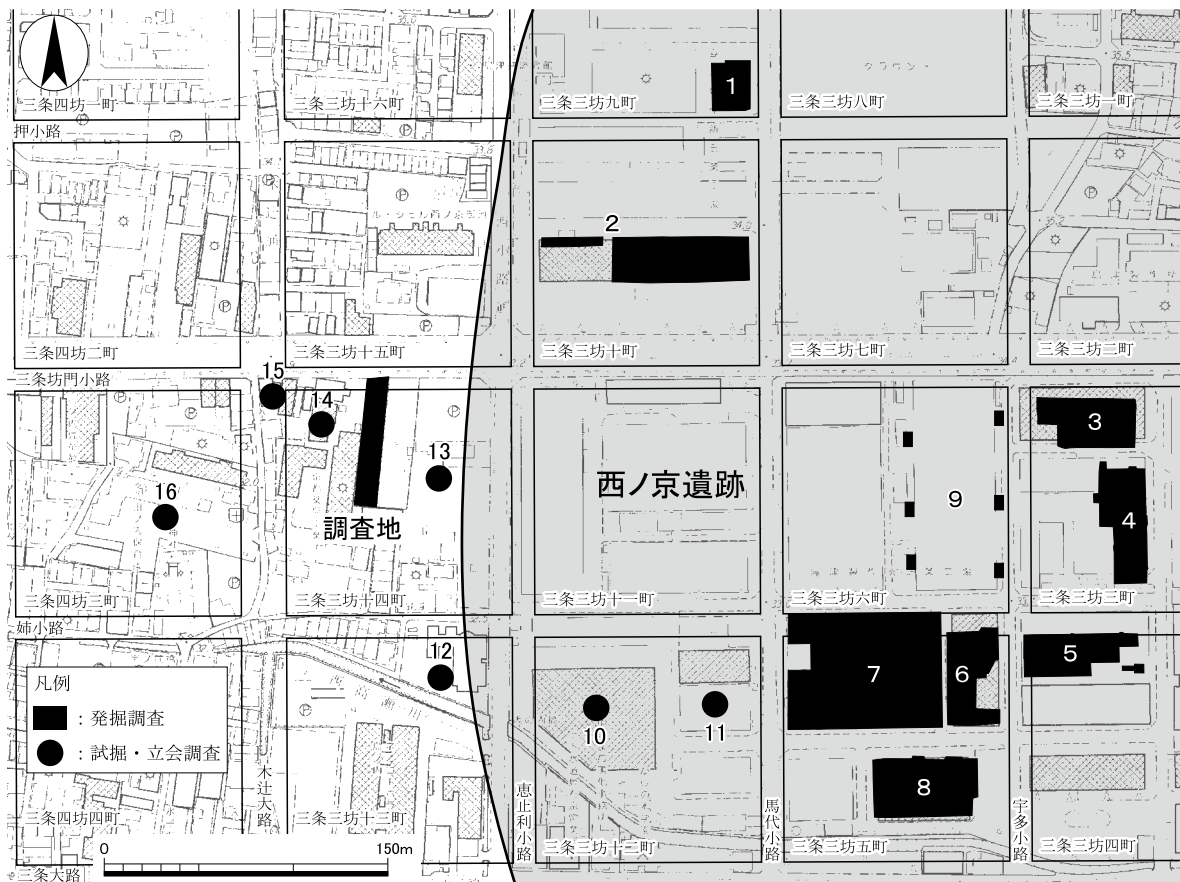


図7 周辺調査位置図（1：4,000）

表1 周辺調査一覧表

No.	条坊	調査方法	調査機関	文献
1	三条三坊九町	発掘	財団法人 古代学協会	1
2	三条三坊十町	発掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	2
3	三条三坊三町	発掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	2
4	三条三坊三町	発掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	3
5	三条三坊四町	発掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	4
6	三条三坊五町	発掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	2
7	三条三坊五町	発掘	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	5
8	三条三坊五町	発掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	6
9	三条三坊六町	発掘	株式会社 日開調査設計コンサルタント	2
10	三条三坊十二町	試掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	7
11	三条三坊十二町	試掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	8
12	三条三坊十三町	試掘	京都市文化財保護課	9
13	三条三坊十四町	試掘	京都市文化財保護課	10
14	三条三坊十四町	試掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	11
15	三条三坊十四町	立会	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	12
16	三条四坊三町	試掘	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所	8

文献（表1 周辺調査一覧表）

- 1 「平安京右京三条三坊九町跡 島津本社内新築工事に伴う発掘調査」『平安京右京内5遺跡』平安京跡調査研究報告第12輯 財団法人古代学協会 2009年
- 2 「平安京右京三条三坊十町」『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年
- 3 山本雅和・田中利津子・竜子正彦『平安京右京三条三坊三町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2009-4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2009年
- 4 田中利津子『平安京右京三条三坊四町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年
- 5 山本雅和・末次由紀恵『平安京右京三条三坊五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2017-15 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2018年
- 6 平尾政幸『平安京右京三条三坊』『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 7 『平安京右京三条三坊六町・西ノ京遺跡』文化財調査報告書第3集 株式会社日開調査設計コンサルタント 2007年
- 8 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成元年度』京都市文化観光局 1990年
- 9 『京都市内遺跡試掘調査概報 平成7年度』京都市文化市民局 1996年
- 10 西森正晃「平安京右京三条三坊十四町跡・西ノ京遺跡 No.6」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年
- 11 『京都市内遺跡試掘、立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年
- 12 『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年

三条三坊三町の調査3・4では、古墳時代の溝、平安時代前期の建物・井戸・溝・土坑が検出されている。

三条三坊四町の調査5では、古墳時代の溝、平安時代前期の大型建物・溝・土坑が検出されている。

三条三坊五町の調査6～8では、平安時代前期の大型建物・井戸・姉小路南側溝・柵・土坑、鎌倉時代以降の溝・土坑などが検出されている。

三条三坊六町の調査9では、明確な遺構の広がりおよびその存在については確認できなかった。

三条三坊十二町の調査10では、旧耕土下に湿地状の堆積が認められ、遺構は検出されなかった。

三条三坊十二町の調査11では、平安時代後期の整地層を確認している。

隣接する三条三坊十三町の調査12では、湿地状堆積を確認しただけであったが、今回の調査地が所在する三条三坊十四町では、調査13で、柱穴列・南北溝・土坑・ピットが多数検出され、平安時代前期の遺構面が良好に遺存していることがわかり、その保護のため、建物の設計変更が行われている。調査14では、室町時代から江戸時代の遺物包含層が確認されているが、調査15では、遺構・遺物ともに検出されなかった。

三条四坊三町の調査16では、平安時代後期から鎌倉時代の溝・柱穴・土坑が検出された。

以上のように、周辺の調査では、平安時代前期から中期を中心にして、古墳時代、平安時代、鎌倉時代以降の遺構や遺物が確認されている。遺構の密度から見ると、西小路通を境として、その東側で高く、西側では低くなっている。

#### 註

- 1) 『京都市遺跡地図台帳【第8版】』京都市文化市民局 1997年
- 2) 「拾芥抄」『故実叢書 禁秘抄考註・拾芥抄 第22巻』明治図書出版株式会社 1993年

### 3. 遺 構

#### (1) 基本層序 (図8、図版2)

調査地周辺の現況地形は、北側がやや高く、南側へ向かって緩やかに傾斜している。調査地の現地表面の標高は32.0～32.45mである。

調査区の基本層序は、現地表下約0.2～1.1mが現代盛土、その下に旧耕作土が約0.1～0.35m、さらにその下に床土が約0.2m堆積する。ただし、調査地北半(2区・3区)では床土は存在しない。その下が明黄褐色細砂・にぶい黄褐色微砂の地山である。

遺構はすべて地山面で検出し、平安時代中期を中心とする遺構を確認した。

#### (2) 遺構の概要 (表2)

今回の調査では、平安時代の三条坊門小路南側溝・井戸・柱穴列、平安時代以降と考えられる耕作に伴う水田整備時の造成による段差・溝などを検出した。

以下、検出した主要な遺構について述べる。

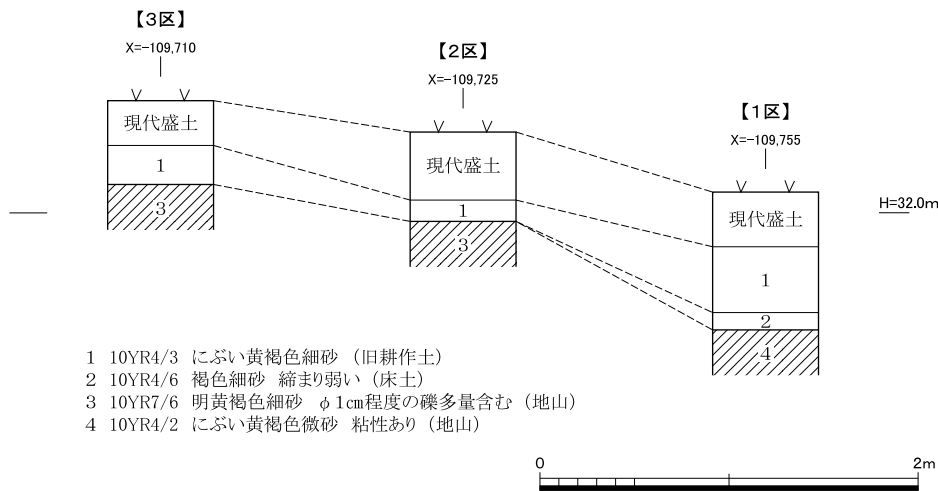


図8 基本層序図 (1:40)

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
平安時代中期	溝18、井戸3、柱穴列1・2	溝18は三条坊門小路南側溝
平安時代以降	段32、溝1	
江戸時代	溝31	

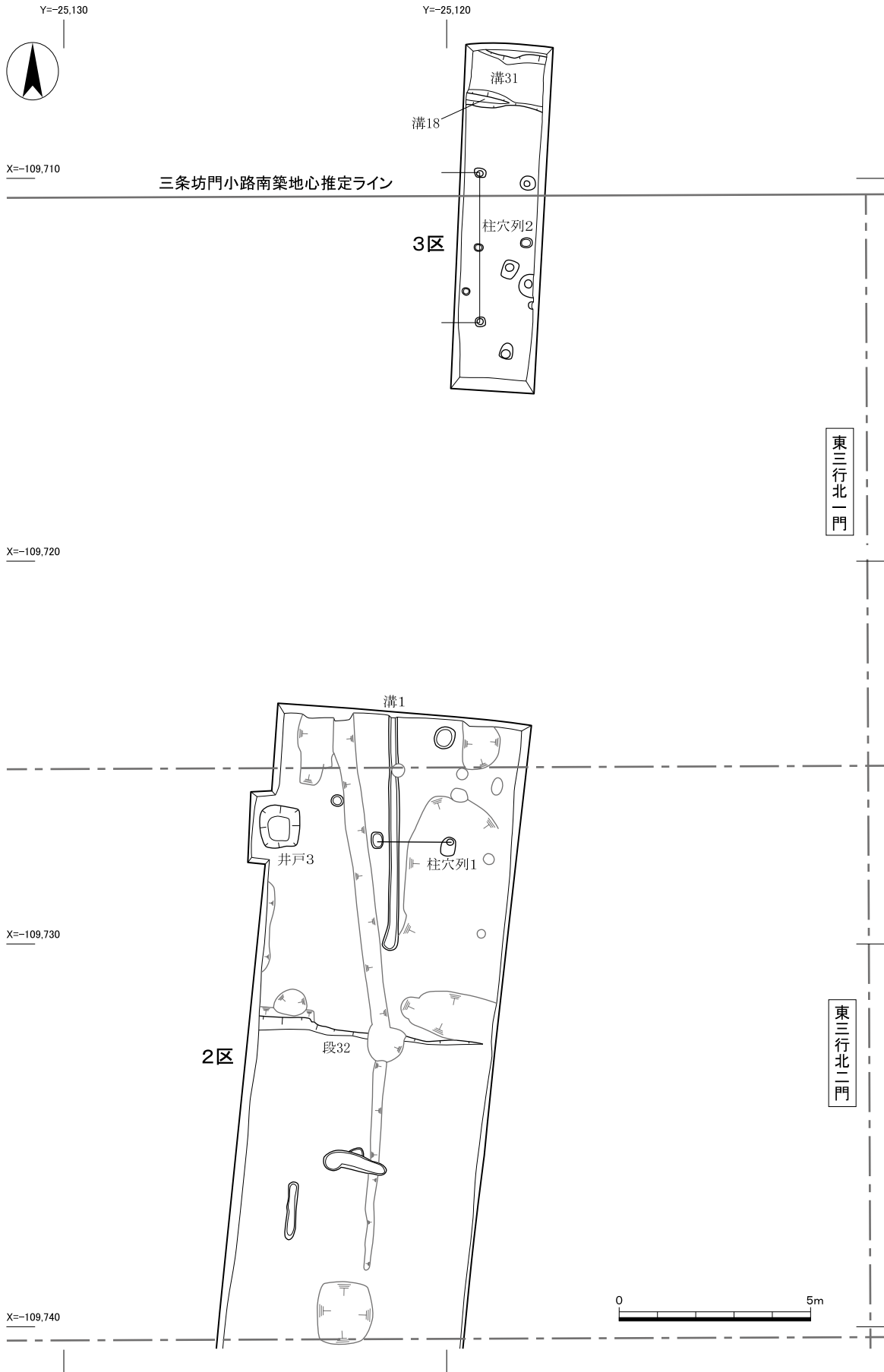


図9 2区・3区平面図 (1 : 150)

### (3) 遺構 (図9、図版1～4)

#### 平安時代の遺構

**溝18** (図10、図版4) 3区北端で検出した東西方向の溝で、南肩部のみを確認した。東西両端は調査区外へ延長する。深さは約0.35mである。近世の溝31と重複し、大きく削られている。ほとんど遺物は出土しなかったが、埋土の状況や三条坊門小路の南側溝推定位置とほぼ一致することから、三条坊門小路南側溝と考えられる。

**井戸3** (図11、図版4) 2区北部で検出した井戸である。掘形は隅丸方形で、南北約1.2m、東西約1.1mである。深さは検出面から約0.6mで、底部の標高は31.4mである。井戸枠などは確認できなかった。埋土の第2層からは、平安時代前期から中期の土師器・須恵器・緑釉陶器などが出土した。

**柱穴列1** (図12) 2区北部で検出した東西方向の柱列である。検出した柱穴は2基。柱穴は直径約0.3～0.4mの楕円形、深さは検出面から約0.1m。検出長は約2.3m。柱穴列1より南は遺構密度が減少することから、宅地の南限を示す柵の西端の可能性が考えられる。

**柱穴列2** (図12) 3区で検出した南北方向の柱穴列である。検出した柱穴は3基。柱穴は直径約0.25mの隅丸方形、深さは検出面から約0.18m。検出長は約4.2mある。時期は平安時代でも少し下がると考えられる。また、西側へ延長する建物の可能性も考えられる。

#### 平安時代以降の遺構

**段32** 2区中央で検出した東西方向に延びる段である。段の上下で約0.1mの高低差がある。また、この段の一部で盛土による畦を確認している。水田整備時の造成による段差で、水田・区画の境であったと考えられる。

**溝1** 2区北半で検出した南北方向の溝である。検出長は0.62m、幅0.2m、深さは0.2mを確認した。耕作に伴う溝と考えられる。

#### 江戸時代の遺構

**溝31** (図版4) 3区北半で検出した東西方向の溝で、平安時代の溝18と重複して検出した。検出長は2.0m、幅1.47m、深さは0.34mを確認した。輸入陶器と考えられる三彩陶器が出土している。

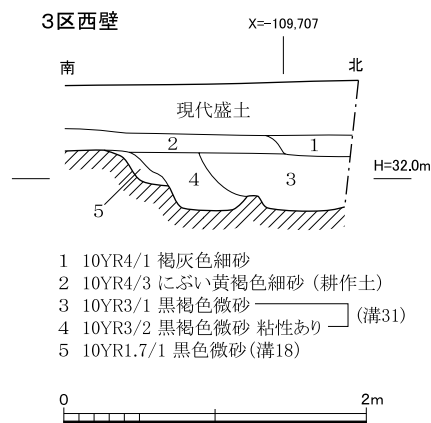


図10 溝18・31断面図 (1:50)

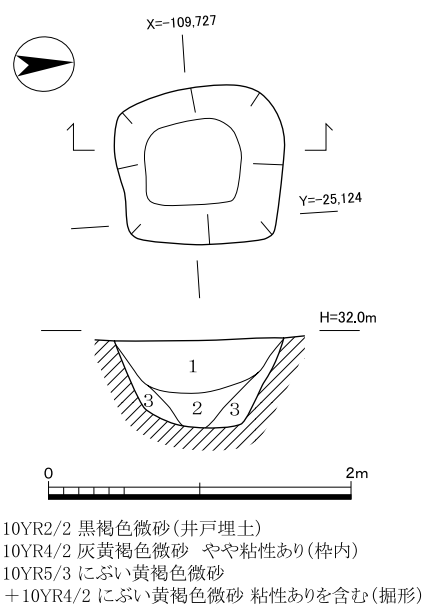
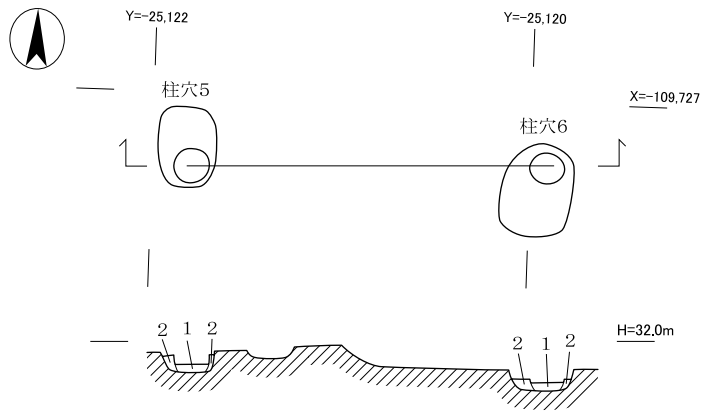


図11 井戸3実測図 (1:50)



柱穴列1



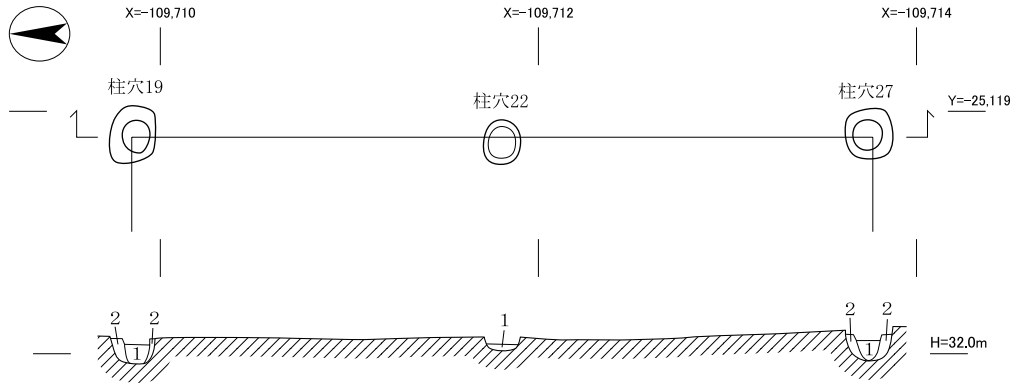
柱穴5

- 1 10YR4/4 褐色微砂
- 2 10YR4/2 灰黄褐色微砂

柱穴6

- 1 10YR2/2 黑褐色微砂
- 2 10YR6/6 明黄褐色微砂

柱穴列2



柱穴19

- 1 10YR2/1 黑色微砂 土器片含む
- 2 10YR3/3 暗褐色微砂

柱穴22

- 1 10YR2/2 黑色微砂

柱穴27

- 1 10YR3/3 暗褐色微砂 粘性あり 土器片含む
- 2 10YR5/6 黄褐色微砂(地山) + 10YR3/3 暗褐色微砂混じり



图13 柱穴列1・2実測図(1:40)

## 4. 遺物

### (1) 遺物の概要

今回の調査では、整理コンテナにして3箱の遺物が出土した。出土遺物には、土器類・瓦などがある。そのうち全体の9割以上を土器類が占める。遺物の時期は、平安時代中期を中心として、平安時代前期と江戸時代のものがある（表3）。

なお、出土遺物の時期は、平安京・京都Ⅰ期～ⅩⅣ期の編年案に拠る<sup>1)</sup>。

### (2) 土器類（図13・14）

井戸3出土土器（1～4） 1は土師器杯である。底部外面はオサエ痕が残り未調整。口縁部はヨコナデで端部をつまみ上げる。器壁は薄い。胎土は密で、黄褐色を呈し、焼成は良好である。時期は京都Ⅱ期新段階である。

2・3は須恵器杯Bである。2は底部をヘラおこしのちナデ、高台は貼り付け。体部から口縁部にかけて内面・外面ともに回転ナデ。口縁端部は丸みをおびておさまる。胎土は密で、灰色を呈し、

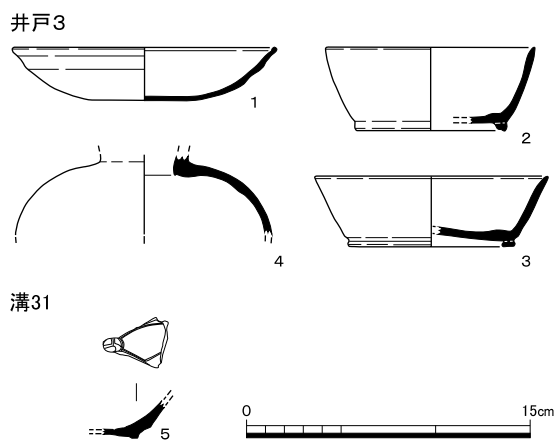


図13 出土土器実測図（1：4）

焼成は良好である。内面が滑らかになっており、朱墨が付着していることから、転用硯と考えられる。3は底部をヘラおこしのちナデ、高台は貼り付け。体部から口縁部にかけて内面・外面ともに回転ナデ。口縁端部は丸みをおびてやや外反する。胎土は密で、灰色を呈し、焼成は良好である。時期は京都Ⅱ期である。

4は須恵器壺の肩部である。体部は内面・外面ともに回転ナデ。外面に自然釉がかかる。胎土は密で、灰色を呈し、焼成は良好である。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代前期	土師器		土師器1点、須恵器2点		
平安時代中期	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、瓦		須恵器1点		
江戸時代	三彩陶器(輸入か)		三彩陶器1点		
合計		4箱	5点(1箱)	0箱	3箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

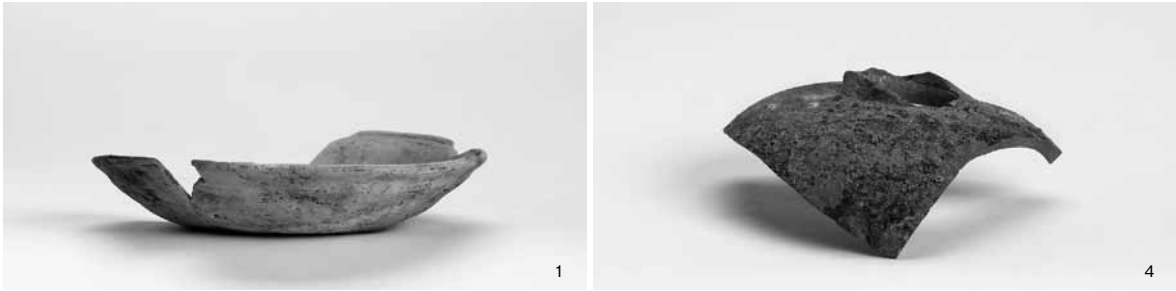


図14 井戸3出土土器

溝31出土土器(5) 5は三彩陶器である。底部・体部外面はケズリ出し。見込みには沈線が入る。胎土は密で、明黄褐色を呈し、焼成は良好である。輸入陶器の可能性はある。

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年

750頃			840頃			930頃			1010頃			1080~90頃			1180頃			1270頃			1360頃			1440頃			1500頃			1580~90頃			1660頃			1740年代頃			1820年代頃								
I			II			III			IV			V			VI			VII			VIII			IX			X			XI			XII			XIII			XIV								
古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新

## 5. まとめ

今回の調査では、平安時代の三条坊門小路南側溝、井戸、柱穴列及び平安時代以降と考えられる耕作に伴う水田整備時の造成による段差、江戸時代の溝などを検出し、当地における土地利用のあり方を確認することができた。以下、時代順に成果を述べる。

### 平安時代

調査区北半部で、柱穴列や井戸などの生活痕跡を集中して確認した。建物と考えられる柱穴列や井戸などが東三行北一門から北二門の範囲に収まることから、小規模宅地の一部だと考えられる(図9)。また、調査区南半部では、時期不明の床土が確認できた。

これらの点から調査区北半部では、平安時代中期には三条坊門小路沿いの東三行北一門から北二門間で宅地化していき、南半部は平安時代以降耕作地化していくと考えられる。

### 江戸時代

3区北端で検出した溝31は、三条坊門小路南側溝(溝18)を踏襲する形で溝が掘られ、再度利用されていたことがわかった(図15)。

近世以降、調査地周辺は耕地が広がり、田地と<sup>1)</sup>なっていく。その際に再度区割りが整備されたと考えられる。今回検出した溝31もそれに伴うものと考えられる。



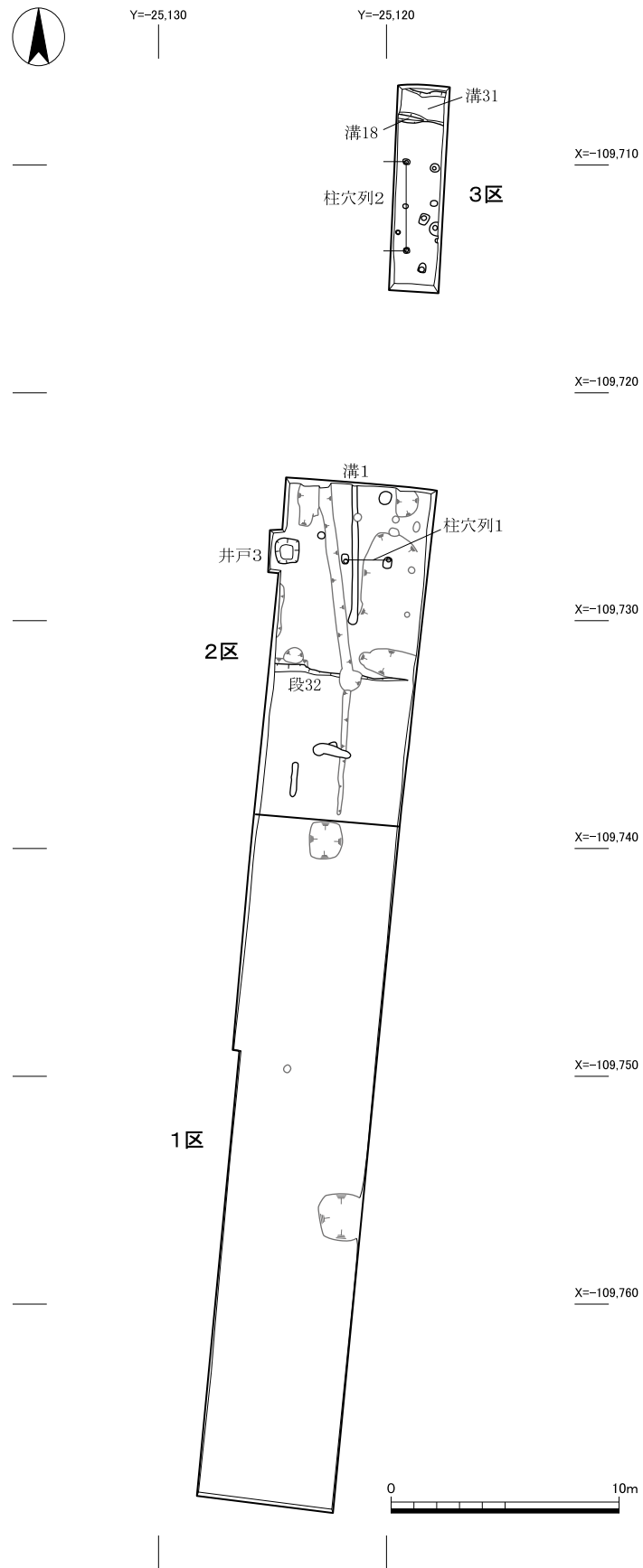
図15 3区拡張後 溝18・31 (南西から)

### 註

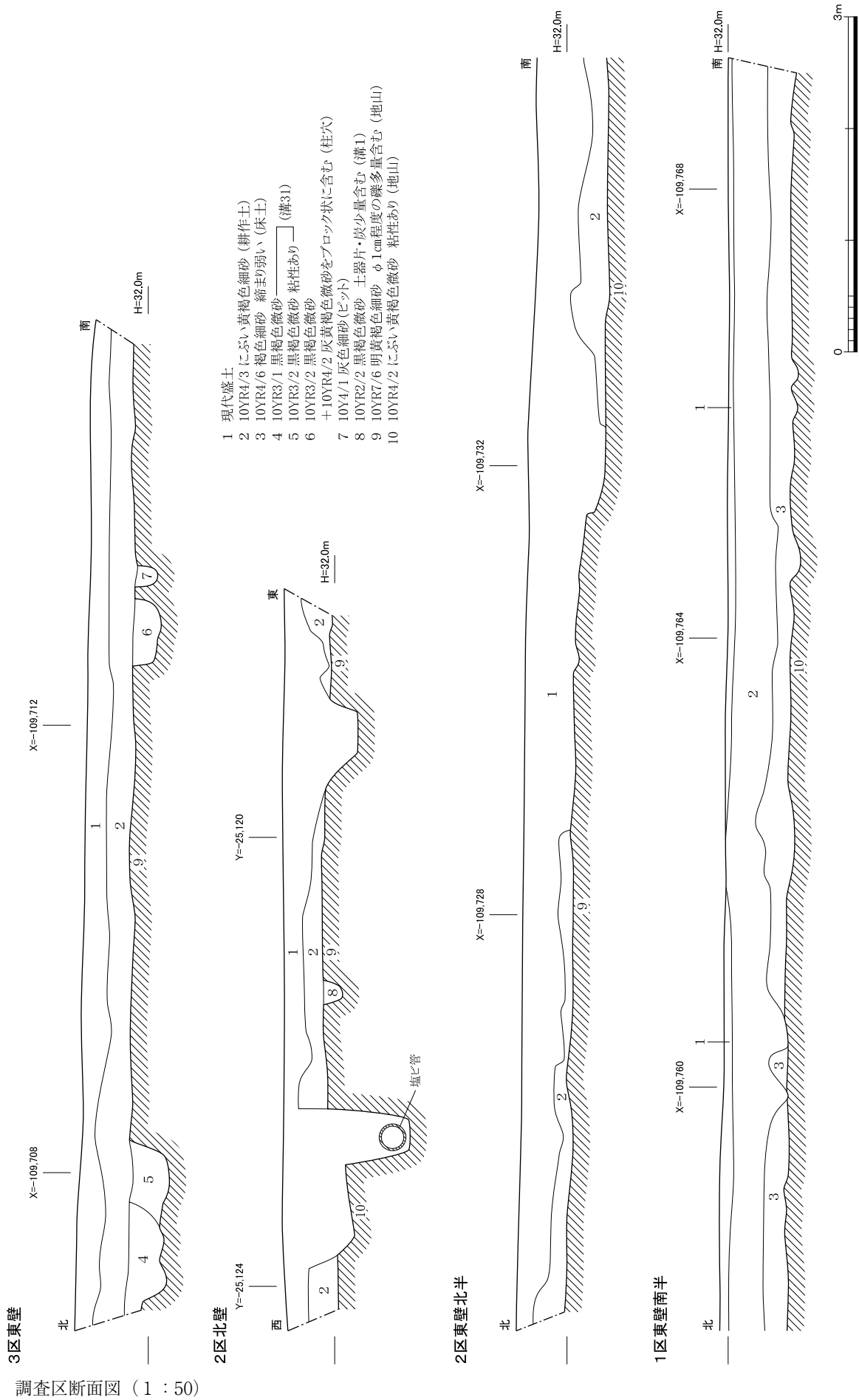
- 1) 足利健亮ほか「中京区概説」『史料 京都の歴史 第9巻 中京区』平凡社 1985年

# 圖 版





調査区平面図 (1 : 300)



調査区断面図 (1 : 50)





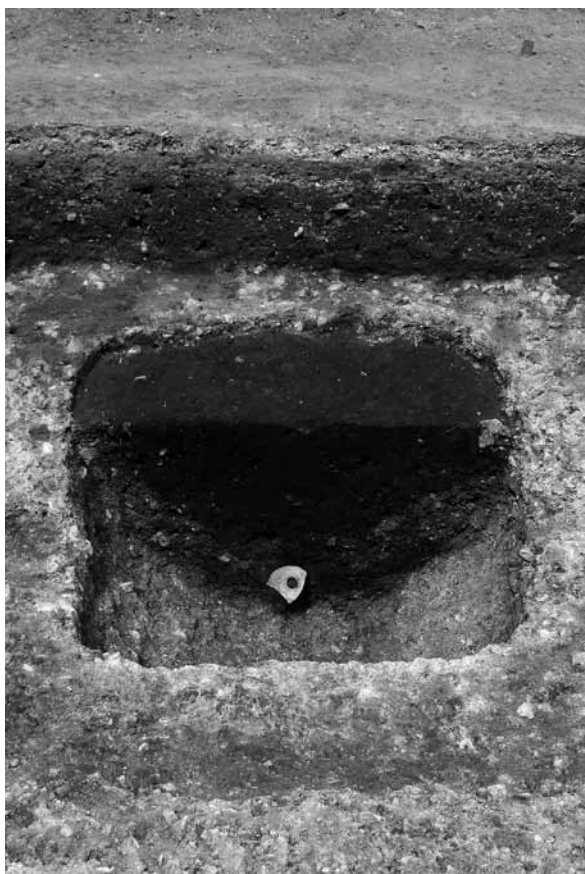
1 1区全景（北から）



2 2区全景（北から）



1 3区全景（南から）



2 2区井戸3半裁状況（東から）



2 3区溝18・31（西から）

# 報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうさんじょうさんぼうじゅうよんちょうあと							
書名	平安京右京三条三坊十四町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2019-6							
編著者名	岡田麻衣子							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2019年12月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとしなかがきょうく 京都市中京区 にしのみきょうつきのわちょう 西ノ京月輪町  33番地1	26100	1	35度 00分 38秒	135度 43分 29秒	2019年7月 10日～2019 年8月13日	286㎡	工場増築 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安時代中期	溝、井戸、柱穴列	土師器、須恵器、黒色土器、緑釉陶器、瓦		平安時代の三条坊門小路南側溝と考えられる溝を検出した。 三条坊門小路沿いに建物や柵とみられる柱穴列や井戸を検出した。		
		平安時代以降	段、溝					
		江戸時代	溝	三彩陶器(輸入か)				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2019-6  
平安京右京三条三坊十四町跡

発行日 2019年12月27日

編集  
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1  
〒602-8435 TEL 075-415-0521  
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地  
〒604-0093 TEL 075-256-0961